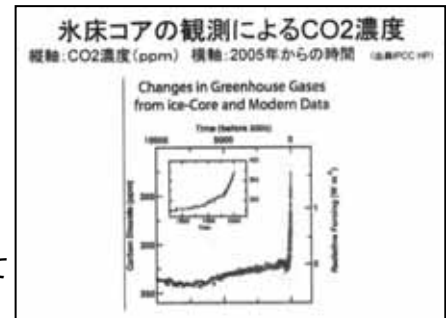


日時：平成 19 年 10 月 26 日（金） 18:00~19:30  
 場所：港区生涯学習センター 304 学習室  
 講師：萩野良允（都市エコロジーコンサルティング）  
 演題：地球温暖化と再生可能エネルギー  
 内容：



## 1. CO2 など温室効果ガスの増加

大気中濃度	産業革命前 (ppm)	2005 年 (ppm)
CO2	280	379
メタン	0.716	1.774
N2O	270	319

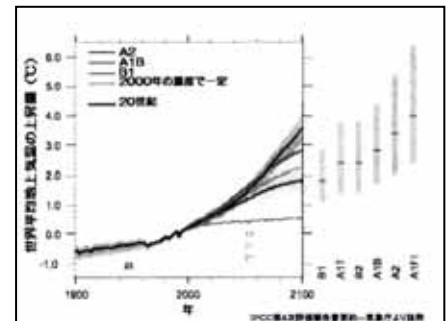


## 2. 温室効果ガスは悪玉ではない。『問題は温室効果ガスの量です』

- CO2 を例にあげると、植物や海に吸収されて、温室効果ガスの層の状態がほどほどにあって、地球全体でバランスがとれていた。
- この CO2 が増えすぎると、温室効果ガスの働きとして放射熱を過度に吸収し、地表に向かって再放射する。その結果地表面の温度を押し上げる温室効果が進みすぎるのである。
- いわば『地球にかぶせられた、大気の蓋のようなものが分厚くなってしまっ、地球が冷めない』という状態が今の地球環境ではないか。

## 3. IPCC (気候変動に関する政府間パネル)

- 世界的な CO2 濃度の増加は、第一に化石燃料の使用及び土地利用の変化に起因する
- 気候システムの温暖化には、疑う余地はない
- 温暖化は進行しており、その原因は人為的な温室効果ガスの排出による可能性がかなり高い。



## 4. 温室効果ガスの代表、CO2 を減らすには・・・

- CO2 を出す、化石燃料にあまり依存しない。
- エネルギー消費を抑えた都市と、生活スタイルに。
- 再生可能エネルギーをもっと拡大・普及させる。
- 燃料電池などの新エネルギーと水素利用社会

## 5. 再生可能エネルギー

- 自然由来で、地球の炭素循環を損なわずに持続的に利用可能なエネルギー
- 水力、太陽光・太陽熱、風力、バイオマス、地熱・波力・潮力、etc

## 6. バイオマスの種類

- 廃棄物系バイオマス（食品廃棄物、家畜排泄物、建築廃材など）
- 未利用バイオマス（稲わら、もみ殻、麦わら、間伐材、林地残材など）
- 資源作物（糖質資源、澱粉資源、油脂資源）

## 7. 持続可能エネルギー社会への提案

- 再生可能エネルギーへの、イノベーションをさらに進める。
- CO2 排出を抑える方向に、交通・産業・建築を徐々にシフトしていく。
- バイオマス・太陽光発電・風力発電と、燃料電池等の新エネルギー技術をベストミックスしていく。

質疑：バイオ燃料の導入についてやバイオマスニッポンについて等活発な質疑応答がなされた。

参加者：会員 11 名、非会員 2 名、合計 13 名（交流会参加者：11 名）

資料：資料が必要な方は、下記に連絡ください。

担当：鈴木 TEL: 03-3872-6064 e-mail: [cobra@kotohcorp.co.jp](mailto:cobra@kotohcorp.co.jp)